Education first !!

久留米大学医学部 医学教育研究センター

Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター　ニュースレター　第31号　2019 年 4月発行

第113回医師国家試験

第113回医師国家試験の結果が発表されました。全国の合格者が9029名（合格率　89%）、久留米大学の合格者は119名（合格率87.5%）でした。受験生の皆さま、お疲れ様でした。例年と比べると全国合格者数は横ばいですが、受験者数が増加しているために全国の合格率が低下しています。今後も受験者数の増加が見込まれるため、しばらくは受験生には厳しい状況が続くのではないでしょうか。久留米大学の入学定員は115名ですから、毎年115名の合格者を出せば、入学した全ての学生を医師にしていることになります。今年は厳しい状況の中、119名の合格で+4名のボーナスをもらったという事ですから、学生の頑張りに感謝したいと思います。

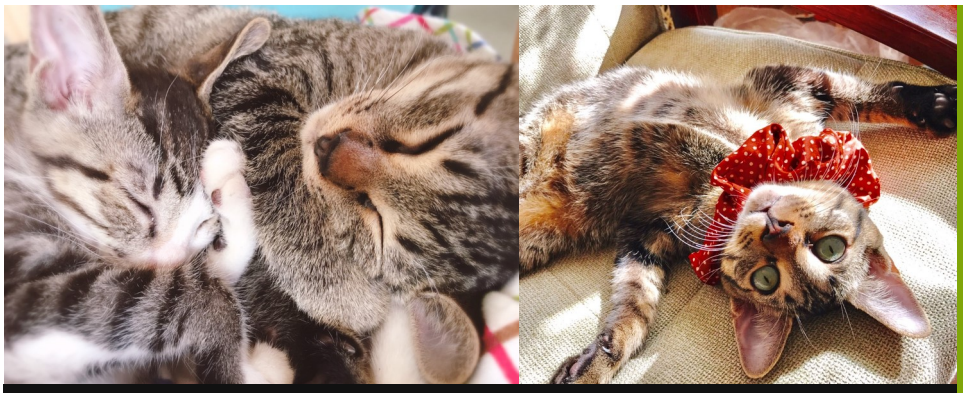
医学教育研究センターは教育１号館の６階にあります。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

Q1：111×111を計算してください。
Q2：111,111×111,111を計算してください。
Q3：111,111,111×111,111,111を計算してください。

A：当たり前の事なのですが、なんだか不思議ですよね。



今月のニャンコより（モフモフ癒しのおすそ分け ）

今号の特集

- 今月の教員の声
- PCCE開催

今月の教員の声

柏木　孝仁　（医学教育研究センター）

昨年度、全教員を対象に電子シラバス（Moodle）上で第1回教育FD（e-Leaning形式）を行いました。おおよそ700名の教員を対象にしたe-Learningで、3月31日までに465名の方が受講を完了しました。期限は3月31日でしたが、まだ200名以上の先生方の受講が完了していないため引き続きコースを開放しております。受講率100%を目指していますので、未受講の方は受講を済ませて頂きますようにお願いいたします。また、このような形式の教育FDは今後も継続される予定ですので、その際にもご協力をお願いいたします。

コースの最後に先生方にアンケート（コメント）を記載していただきました。コメントを自由記載にすると、あまりコメントを得られませんが、必須にすると、どうせ書くならと色々とコメントをしてくださる方が増えるため、できるだけ多くの意見を聞くためにコメントを必須としました。アンケートへのご協力に感謝いたします。

コメントの中で、気になった質問や意見をピックアップし、可能な範囲で回答したいと思います（回答になっていないものがほとんどですが･･･）。この内容については、教育FD01コースの中にある「情報交換用掲示板」で確認でき、また意見を記入することもできますので、ご活用ください。詳細なまとめについては、後日改めて正式に公開します。

Q：システムが使いにくいです。

A：このe-Learningシステムについて、使いにくい部分があるという指摘があります。全くその通りです。申し訳ありません。

本来、システムの使い方を事前説明した上で行うべきものですが、FDが2重になってしまう点と、700名の対象者に使い方を説明する方略が無い（e-Learningのe-Learningになってしまう）ため、何の説明もなく、e-Learningを進めて頂くことになってしまいました。お金もかけられないという事情もあります。

この教育FDそのものが、「学生の使っている電子シラバスには、このような使い方もある」ということを知って頂くFDでもあると思っていただけると幸いです。

Q：予習用資料に著作物は使ってはいけないんでしょうか。

A：授業の範囲で使う分には構いません。ただし、このような電子システムは「授業の範囲」に含まれていないため、電子シラバス（Moodle）上には予習用資料に限らず一切の著作物を提示することができません。

ただし、これでは学生が予習や復習を行う事ができません。文部科学省もこの問題を把握しています。そこで、著作権法が改訂され、学校等が一定の補償金を支払う形で授業に使用する資料を電子システム上にも提示できるようになります。

法律自体は昨年すでに成立しており、2019年1月1日より施行されていますが、著作物を扱う際の補償金の回収方法が決まっていないため電子システム上への著作物提示はまだ行えません。

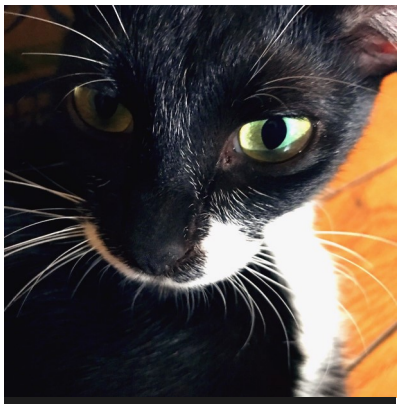
提示可能になった段階で改めて学内に通報します。

医学教育研究センター（CSME）

https://csme.kurume-u.ac.jp

電子シラバス（Moodle）

https://moodle.kurume-u.ac.jp



今月のニャンコ

授業の範囲であれば、著作物を使用し学生にプリントを配布することができます。ただし、著作者の利益を侵害する行為はNGです。どのような場合が著作者の利益を侵害するか・・・。例えば、以下の行為はNGと考えられます。

指定教科書を毎回複製して配布する（指定教科書は学生が購入すべきものですから学生が教科書を購入せずにすむような行為は著作者の利益侵害です）。

問題集を複製して配布する（学生が個人で購入して用いることを想定しているので複製物を渡すことは利益を侵害しています）。ただし、医師国家試験問題については教育に利用可能です。

Q：予習や復習を学生の自主性に任せて良いのか。

A：予習については、本人への利益が無ければ何もしてこないと思います。予習をしてこないと痛い目にあうとか、予習をしてきたことが役に立つなどの動機付けは必要です。大学教育の中では、前者のような罰を与える方法ではなく、後者を心掛けたいです。わずかな事でも良いので、予習してきたことを確認できるような機会が講義の中であると良いと思います。

復習については、先生方の講義の大切さがどれだけ学生に伝わっているか、もう少し勉強したいという興味をどれだけ引き出せたかではないでしょうか。

ただ、いつでも学生の興味を引けるように完ぺきな講義などできませんし、内容によっては興味以前に淡々と説明するほかない分野もあると思います。学生の反応を見ながら手探りで泥臭く頑張るしかありません。自身に興味がなければ相手にも興味は伝えられませんので、まず自分の講義の何が面白いのかを考えてみるというのはどうでしょうか。

この課題は多くの先生方に議論していただきたいです。

Q：やる気のある学生とない学生がいます。やる気のない学生にどのように指導をすべきでしょうか。

A：これはとても難しい課題です。多くの先生方が同じように悩まれていると思います。答えは分かりませんので、一つの考え方としての回答しかできません。

卵が先かニワトリが先かになってしまいますが、入学時の学生は「やる気のある学生」がほとんどです。大学生活の中で次第にやる気が失せているということです。つまり、「やる気のない学生」への指導よりも先に、「やる気のある学生」への指導が重要ではないかと思います。大学の教育の中でいかにやる気を下げないか、を心掛けたいです。学生の成長を見通して、些細な事でも良くなった点を的確にフィードバックしてあげたり、点数には表れていなくても、努力した部分を見つけてあげるなど、頑張りや努力を評価してあげることもひとつの手段と思います。

これは、すでにやる気が下がってしまっている学生への回答にはなっていません。下がってしまったやる気を再度上げるにはどうすればよいか、これは教育の課題です。

この課題も先生方にも色々と議論していただきたいと思います。

医学教育研究センター（CSME）

https://csme.kurume-u.ac.jp

クリニカルスキル・トレーニングセンター

https://www.kurume-u.ac.jp/site/cstc/

今月のニャンコ

PCCE （Pre-Clinical Clerkship Exercise） が開催されました！

片山 礼司 （クリニカルスキル・トレーニングセンター）

平成30年12月13日～14日の2日間にわたり、医学科4年生を対象としたPre-Clinical Clerkship Exercise（以下、PCCE）が開催されました。本学においては初めての取り組みであり、4年生の臨床実習が始まるタイミングで、学生の皆さんが戸惑うことなくスムーズに臨床実習へ臨むことができ、また、最初のモチベーションを維持したまま学びやすい環境へ移行してもらうためのものです。

クリニカルスキル・トレーニングセンターにおいては、①救急蘇生（シナリオ実習）、②呼吸器診察実習、③循環器診察実習、④縫合実習、⑤清潔不潔教育・ガウンテクニック実習、⑥輸液点滴作成実習・シリンジポンプ教育、⑦患者移送実習 （車いす・ストレッチャー）という7つのプログラムが実施されました。①～④の実施ブースにおいては、長年臨床に従事され多くのご経験をお持ちの医師の方々に指導教官を務めていただき、実践的な教育と双方向性の高い実習が行われました。また、いくつかのプログラムでは、5年生が指導協力者として加わってくれたことにより、今後求められる屋根瓦式教育に期待できる様子も見られました。⑤～⑦の実施ブースにおいては、手術室や病棟において指導を担っておられる看護師の方々に教官を務めていただき、基本手技のみならず、医療安全の観点や患者の視点に立った、臨床現場ならではの実用的なスキルや注意点など幅広く指導していただきました。

今年度のPCCEプログラムは、学生の方々にとって初めての経験となる事項も多かったと思われますが、トレーニングセンターでの経験と2日間で学んだ内容を今後の臨床実習に活かしていただくことを期待しています。

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

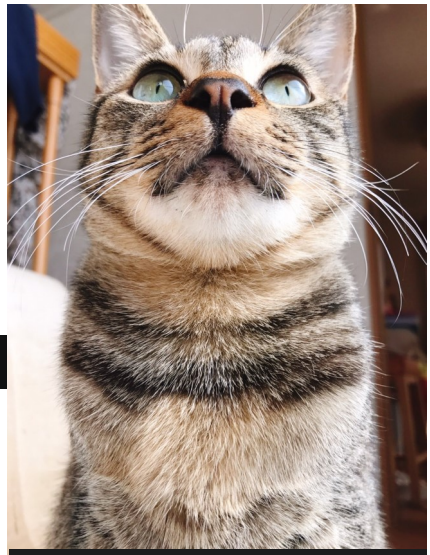
Q： PCCEの際にトレーニングセンターで使用した機材を授業以外でも使用できますか？

A： 内容に応じて対応します。内線6597へ問い合わせてください。

Q： OSCEのための自己学習を行いたい場合はどうすればよいですか？

A： OSCE前であれば、教務課と打合せを行いトレーニングセンターの開放期間を設定しています。

期間や時間設定については、教務課（内線 3021）またはトレーニングセンターへ問い合わせてください。



今月のニャンコ

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。第３１号です。ずいぶんと間が空いてしまいました。元号が令和となった今年度はできるかぎり間を空けないように頑張りたいです。今回は、ニャンコ画像がたくさんありましたので、あちこちにちりばめてみました。いかがでしたでしょうか？皆様からのニャンコ、ワンコ、ムササビコ、フクロウコ画像お待ちしています。

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。 記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター 編集担当：柏木 孝仁
〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765
https://csme.kurume-u.ac.jp E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp